

## 青少年委員会担当副理事長方針

鈴木 佑将

現代の教育は、これまでの知識詰め込み型の教育からの脱却を目指し、思考力、判断力、表現力といった能力をどう活かし、複雑な世の中でも生き抜く力をどう育てるのかということに重きを置いた教育を進めています。しかし、教育の根底には、未だ偏差値重視や横並び教育を重んじる考えが残っており、子どもたちの個性や能力を伸ばし育てることへの弊害となっているのが現状です。だからこそ、子どもたちが大人になったとき、生き抜く力を身に付けるためには、従来の教育概念を見直し、未来に向けた教育に励む中で、子どもたちと向き合うことが必要であると考えます。そうすることで、「自律」した子どもたちが複雑な世の中でも日本の明るい未来を創造し、新時代へと切り拓き、輝く当事者になると考えます。

近年、中津川市では、「よりよいひとりだち中津川ビジョン」を基に、様々な取り組みを行っています。その中で、中津川市を創る市民像として「学び、活かす市民」という姿を目指し、これからの社会が激しく変化するとされるリニア時代で、今を生きる子どもたちが中津川市の明るい未来を切り拓き、このまちの当事者になれるよう、「自律」に向けた育成に取り組んでいます。しかし、今を生きる大人に於いては、「自律」に向けた教育の必要性などの理解が乏しく、子どもたちを心配するが故に取り組めていないのが現状です。だからこそ、今を生きる大人が官民ともに子どもたちの「自律」に向け、未来に向けた教育を理解し、子どもたちの自立心を育む必要があると考えます。そのためには、子どもたちを信じ、見守ることで子どもたちの可能性に満ち溢れた力を見出すことが重要だと考えます。そうすることで、子どもたちが大人になったとき、未来を創る当事者となり、中津川市の輝く未来をより豊かに創出していくと考えます。

私は副理事長として、一人ひとりに目を向け、真剣に取り組む、全力で楽しむ中でメリハリをもち、誰もがJC活動を生き活きと取り組めるよう環境を整えてまいります。その中で、メンバー各々の仕事や生活に合わせた活動や参加方法を積極的に取り入れ、メンバーの成長に貢献できるよう尽力してまいります。

### <青少年委員会>

青少年育成に対して正しく理解する中で、子どもたちの個性を尊重し、成長を見守っていただき、大人に対しては、学んだ知識を共有することで共により良い未来に向けた教育を目指し、誰もが輝く社会の当事者となれるよう事業展開をしていただきたいと思います。